

第2学年 道徳学習指導案

平成24年10月31日（水）

- 1 主題名 勤労・社会への奉仕 4－（5）
資料名 「ぼくの職場体験活動」（彩の国の道徳『自分をみつめて』埼玉県教育委員会）

2 主題設定の理由

（1）ねらいとする価値について

内容項目4－（5）は「働くことの意義を自覚し、進んで世のため人のために尽くし、公共の福祉に貢献しようとする心情を育てる。」ことをねらいとしている。働くことは私たちが生きていくうえで重要な位置を占めている。そこにはただお金を稼ぐというだけではなく、それ以上の価値を見出すことができるからである。また、一日のなかで多くの時間とコミュニケーションを費やす時間でもある。職場の人間とのコミュニケーション、客とのコミュニケーションなど人との交わりの中で人として学ぶことは多い。人とのコミュニケーションの充実が心の充実につながり、人生を豊かにすることに繋がっていく。私たちは今その部分に重きを置くことの重要性を認識しなければならない。確かにお金は重要である。なぜならお金でしか手に入れられない物が世の中に溢れているからだ。そして、そのことで得られる幸せもある。お金を得ることに罪悪感を覚える必要はまったくない。しかし、どんな職種においても、「人の為」ということを第一に置かない者はうまくいかない。このことからすると、仕事とは人なのだと考えさせられる。

（2）生徒の実態について

省略

（3）資料について

職場体験活動は、生徒たちにとって社会に触れることのできる貴重な体験である。世の中には色々な職種があり、色々な人たちが働いている。まったく新しい体験や職場の人たちとのふれあいから仕事の大変さ、楽しさ、喜びを感じてもらいたい。今回の授業は職場体験直後に行われる。生徒達は、職場の雰囲気を感じ、実際の職場体験から教訓を得ている。人から与えられるという子どもの意識から、ほんの少し大人になり、人に与えることの喜びを知る人間になってほしいと考えている。

本資料は、行きたくない職場に職場体験学習に行くことに決まった主人公が、職場体験を通して成長する話である。主人公は、仲間と共に職場で活動をしたが、自分だけ大変な仕事になり、いやいやながら仕事をしていた。しかし、一日が終わった後に全員が集められ、その場で主人公の働きが褒められた。仕事をするとはいどういうことか、店の主人の話を聞き、仕事についての考えが変わり、明日からもっとがんばろうと決意する。本資料では、仕事をするとはいどういうことか。奉仕の精神を持って自ら進んで、それを実践しようという態度を培う。そして、社会への奉仕に伴う喜びが自らの充実感として生徒一人一人に体得され、心から満足でき、生きがいのある人生を実現しようとする意欲にまで高めることを目標に授業を展開していきたい。

3 研究主題との関連

研究主題

「豊かな心をはぐくみ、生きる力を育てる道德教育」

—言語活動の充実を図ることで語り合いたくなる道德授業の実践—

4月当初には、道德オリエンテーションを通して、「道德の授業とは」という問いかけから、道德の時間には何を学ぶかを考えさせた。また、発問に対しての答え方を学習した。たとえば、「はい、〇〇〇です」、「△△さんと同じで、□□□だからです」などの答え方を、話し合いを通して学習した。

書く活動を通して自分の考えをもたせ、書いたことを生かしながら様々な意見に触れ、多様な考え方を吟味し、判断を加えながらねらいに迫っていきたいと考えた。生徒一人一人が、資料を読んで発問から考えたことや思ったことをワークシートに書き、それをもとに話し合い活動を展開する。意見発表ではそれぞれの考えが反映されるように心掛けながら進めていく。発問は、キーワードを押さえ、できるだけ短く簡潔にし、多様な考えが出てくるように工夫した。

この授業では、主人公と店長の気持ちにせまるためにロールプレイを行う。生徒の課題に合わせてロールプレイを展開し、発表を受け入れ、気持ちをとらえやすい雰囲気をつくるように工夫する。演技をしていない生徒は、観察者として気持ちを共感できるようにしていく。一人一人の意見のよさや違いを生かしながら、道德的価値を深めていきたい。

4 本時のねらい

まわりの喜びのために働くことの尊さと、それが自分の喜びとなることを理解し、自ら進んで生きがいのある人生を表現しようとする態度を育てる。

5 本時の展開

段階	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点 ○評価 ※言語活動の充実
導入	(1) 事前アンケートの結果を示してクラスの実態について知る。	・事前と事後での感じ方が変わっていることに気づく。	・クラスの実態について知らせる。 ・意識づけ程度にとどめ、あまり深入りしない。
展開	(2) 資料を読んで話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・条件、状況の確認 ・資料の範読 </div>		・主人公「和人」の心の動きに注目して、範読する。
	深める (3)主人公の気持ちを中心に話し合う。 ①一人での店の外を掃除しながら、和人はどんなことを考えていただろうか。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ○主人公と店長の気持ちにせまるためにロールプレイを行う。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・なんでこんなことしなくちゃいけないんだろう。 ・嫌だな。なんで、僕だけが大変な仕事をしないとイケないの。 ・二人は、楽しそうだな…。 ○主人公 <ul style="list-style-type: none"> ・はじめはイヤがっていたけど、明日はがんばろう。 ・僕のことを見ていてくれたんだな。 	○主人公の心情に共感できたか。 ○主人公と店長の気持ちに気付きたらえられたか。 ※ロールプレイを見て、それぞれの立場を考えながら、勤労・社会貢献の気持ちを深めていく。

	<p>②店長から「君のおかげで」と言われて和人は、どんな思いを抱いていただろうか。</p> <p>(補助発問) どんな部分が和人の心を動かしたか。(今までの和人と店長の思いの違い)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・褒めてもらえてうれしい。 ・もっとよくやっておけばよかった。 ・イヤイヤやっていた自分が恥ずかしい。 <p>○店長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄り(お客さん)一人一人を大切にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・店長が和人のことを他の子よりも見ていてくれたことに気付いたか。 <p>○主人公の心の変容を意見交換しながら、とらえられたか。</p> <p>※話し合い活動では、自分の考えをもちながら、仲間の意見を聞き道徳的価値を深めていく。</p>
見 つ め る	<p>③帰り道に、自転車をこぎながら「明日は忙しくなるぞ」と思っていた和人は、どんなことを考えていただろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事が楽しくなりそうだ。 ・明日は、お客さんの喜ぶ顔がみられるように頑張るぞ。 ・仕事に積極的になろう。 	<p>○人の喜びのために働くことの尊さと、それが自分の喜びになることを考えることができたか。</p>
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに関わる「生徒作文」を朗読し、余韻を残す。 ・感想を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱意をもって仕事に取り組む姿勢が自分にあったか確認する。 	<p>○生徒が自らの生活を振り返り、これから自分の生き方や在り方について考えたか。</p>

6 評価の観点

(1) 生徒サイドの観点

- ①仕事に対する心構えが変わってきた「わたし」の心情に共感できたか。
- ②仕事について、考えたこと・考えていなかったことを振り返り、自分の生き方に生かそうとしているか。

(2) 教師サイドの観点

- ①教師からの一方通行にならず、生徒の発表を生かして話し合いが進められたか。
- ②これからの自分の生き方を考えるための手立ては有効だったか。

7 事後指導

10月17・18日に行われた職場体験を思い出させながら、この授業の感想を書かせ、それを紹介する。また、授業で取り上げられなかった生徒作文は、学級通信に載せて紹介する。

職場体験で受け入れて下さった職場の人へ、感謝を込めてお礼状を書かせる。この授業や職場体験だけでなく長期的な視点で、自ら進んで生きがいのある人生を表現しようとする態度を育てる。

僕の職場体験活動

和人(ぼく)

高明

陽二

職場体験活動で第一希望、第二希望がはずれる。

- ・行きたくない・ついていない
- ・別に俺が悪いわけじゃない
- ・やる気がない

店の外の掃除

商品を並べる仕事

- ・なんで俺ばかり
- ・ついてないなあ
- ・やっつけられない

・店長からほめられる

- ・うれしい、見ててくれたんだ
- ・もつときちんとやればよかった
- ・いいかげんにやってたのに
- ・褒められていいのかな

・この店は私の生きがいだ

・地域の一員としてできることがある

- 帰り道、自転車をこぎながら何をかんがえたらろう
- ・お客さんに喜んでもらうよう、がんばるぞ
- ・明日は楽しく仕事ができそうだ

9 資料分析

資料名「ぼくの職場体験」 内容項目4－(5)

登場人物 主人公(和人) 友人(高明、陽二) 相手方(店の店長)

【スタートの条件・状況】

主人公「和人」は、職場体験活動で働くことに乗り気ではなく、楽だと噂されている職場を希望する。しかし、第2希望にも外れ、高明や陽二から責められる。学校近くの商店で体験活動を行うことになったが、やる気になれなかった。

【主人公との関わり】

友人とのやりとりから、やる気のないまま職場体験を行うが、店長の話しからしだいに心が変容していく。「主人公(和人)」と「店長」の関わり合いから、お客や仕事に対する思いを考えさせていく。

【話題につなげたい場面】

1 一人で店の外の掃除をしている「ぼく」

【キーワード、主人公の心情】

「ぼくは、店の外を掃除するように言われた。(何でこんなことまでしなくちゃいけないんだ。ぼくが落としたりごみじゃないのに。)」
(働くことの意義を理解できず、渋々清掃を行う主人公)

【話合いの柱】

①一人で店の外を掃除しながら、「和人」はどんなことを考えているだろうか。

2 店長から「君のおかげで、お客さんが気持ちよく店に入って来られたんだ」と笑顔で言われた「ぼく」

「君たちのおかげで店も助かったよ。」「私が一番感心したのは和人君だ。」
(働くことが人の役に立ち、それが自分の喜びになることをちょっぴり体得した主人公)

②店長から「君のおかげで」と言われて和人はどんな思いを抱いていたのだろうか。

3 帰り道に、空き缶のことを思い出しながら、夕方の風が心地よく、自転車のペダルも心なしか軽く感じる「ぼく」

「店をあとにしなが、空き缶のことを思い出していた。(よし、明日は、今日より忙しくなるぞ。)」
(自ら進んで実践してみようと考えた主人公)

③帰り道に、自転車をこぎながら「明日は忙しくなるぞ」と思っていた和人は、どんなことを考えていたのだろうか。

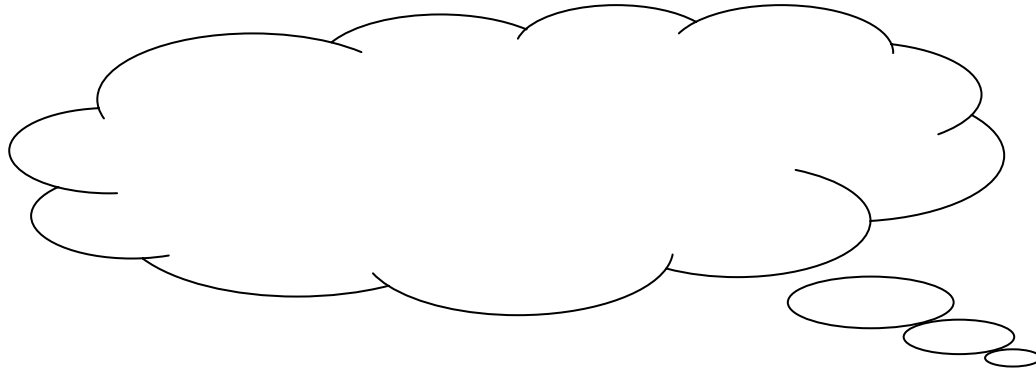
【ねらいとする人物像】

まわりの人の喜びのために働くことの尊さと、それが自分の喜びにもなることを理解し、自ら生きがいのある人生を実現しようとする態度を育てる。

23. ぼくの職場体験活動

2年 組 番 (_____)

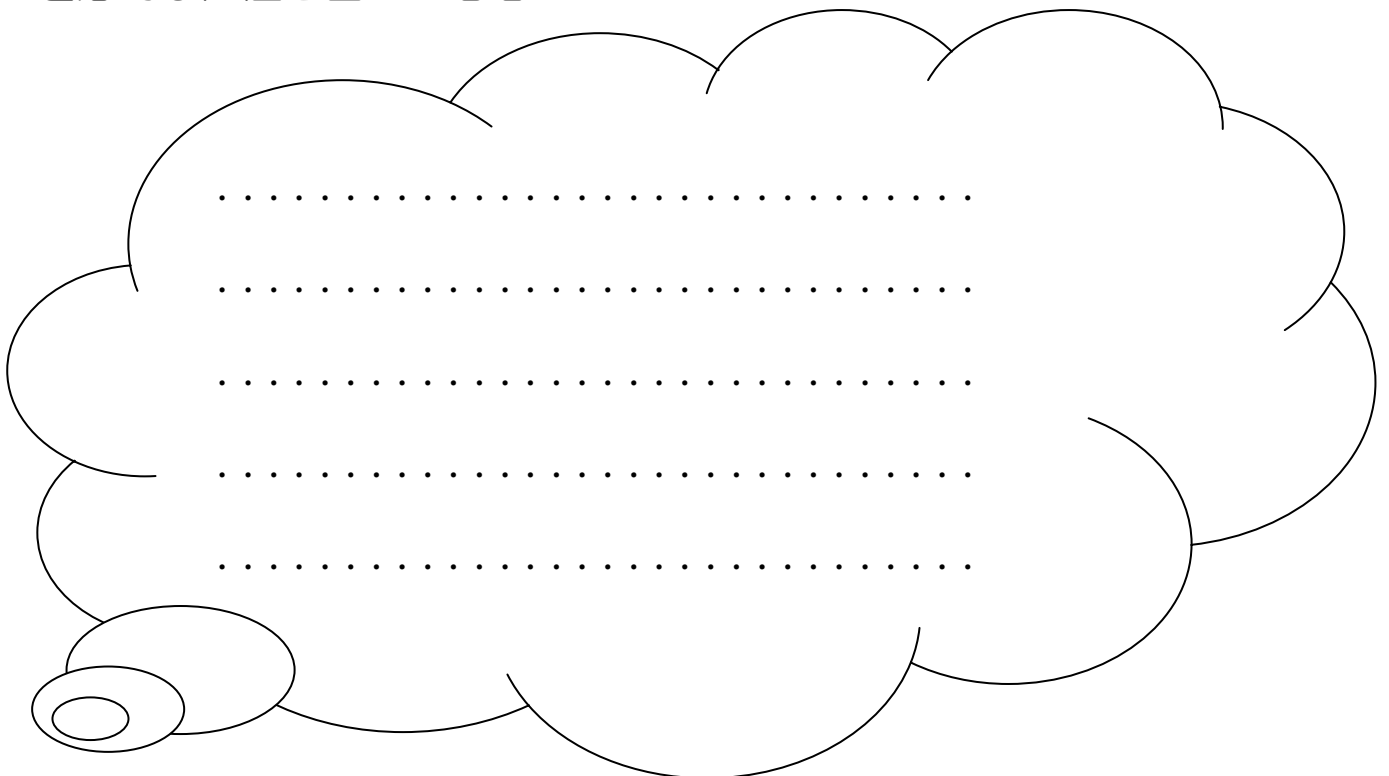
① 一人で店の掃除をしながら、「和人」はどんなことを考えていただろうか。



②

③

道徳的な価値を含めた感想



.....

.....

.....

.....

.....